

農業委員会だより

(第64号)

町農業委員会事務局

☎42-6605

農地利用最適化推進委員として感じたこと



齊藤 修一 (大塚)

平成29年度より農地利用最適化推進委員という役目を推されてから3年目となり、最近感じていることは、農業者の高齢化による離農が増えてきていることであり、その中でも、今まで農地を集積して規模拡大してきた農業者が、後継者がいないために貸借期間終了時に地主に返す方が出てきていることです。

そこで「人・農地プラン」の役員の方々と相談しながら、借り手を探していますが、年々難しくなってきたのが現状です。原因は第一に後継者不足がありますが、さらには水田一区画の面積が小さいことも大きな要因となっています。

その問題を解決するため、大塚地区でも他地区に続いて基盤整備が始まり、農業法人も設立されるなど、明るい兆しが少し出てきています。

農業者の高齢化を止める方法はないことから、次代を担う後継者の育成が最優先課題であり、地域の方々と知恵を出し合いながら、問題解決に向かわなければと考えます。



▲西大塚地区基盤整備事業がスタートした

農地の売り渡しや貸付けのあっせんを行います

農地を売りたい、貸したい場合、農地利用最適化推進委員へご相談を。左表の担当委員が受け手や、売買価格・賃借料を調整します。

地区	担当地域	担当委員	
小松	南区全域	竹田 一弘	
	西区全域		
	北区全域		
大塚	中小松全域	渡部 泰徳	
	西大塚全域	齊藤 修一	
	大字大塚全域 東大塚全域	牛谷 清海	
犬川	下小松全域	荒井 浩	
	大字小松全域		
	高豆蔻全域		
中郡	黒川全域	江袋 實	
	堀金全域		
	苳全域	伊藤 義幸	
	時田全域		
	下奥田全域		
高山全域	竹田 総一		
		上和合	市川 博幸
		御伊勢町	
中程			
玉庭	柏ノ木西	須貝 寿裕	
	酒町・松尾		
	朴沢全域		
東沢	大舟全域	後藤 昌弘	
	上奥田全域		
吉島	洲島全域	内山雄次郎	
	吉田全域		
	尾長島全域		
	下平柳全域	小形 泰弘	

※農業委員も相談に応じます。

農業者年金に加入しましょう

▼3つの加入要件

- ① 60歳未満の方
- ② 国民年金の第1号被保険者
- ③ 農業に年間60日以上従事している方

▼6つのメリット

- ① 積立方式で安定した財政運営
- ② 加入・脱退も自由です。
- ③ 保険料は全額社会保険料控除されます。
- ④ 保険料は自由に選択可能。(月額2万円〜6万7千円)
- ⑤ 農業の担い手には手厚い国庫補助があります。
- ⑥ 80歳まで保証がついた終身年金です。

※ご相談は、町農業委員会事務局まで。



農地パトロールを実施します

農業委員会は、農地の適正な管理と利用を図るため、年に一度の利用状況調査(農地パトロール)を行うよう国により義務付けられていて、農業委員と農地利用最適化推進委員を中心に今年も8月下旬に実施します。

その際に、農地に立ち入ることや所有者にお話を伺うことがありますので、ご理解とご協力をお願いします。

おきたま園芸ステーションを見学して

農業委員

新野

勝廣

(吉島)



▲おきたま園芸ステーションの中の様子

県南農家の所得増大と労働力の軽減の一翼を担う、JAG全農山形「おきたま園芸ステーション」を、オープン間もない今年4月に見学しました。

この施設は、枝豆、アスパラガスの選別と袋・箱詰め設備のほか、農産物の包装加工や西洋ナシなどの予冷に利用できる施設です。

見学会の折には、アスパラガスの選別作業が行われていましたが、8月頃に枝豆の選別作業に切り替わることでした。また、集荷と処理・出荷の一元化により、有利販

おきたま園芸ステーション 処理能力

枝豆 317トン
アスパラガス 174トン



売による農家所得の向上を目指していくと、担当の方から心強い説明がありました。

特に興味を持った設備は、枝豆の色選別機システムでした。現在、国内で最も高性能な機械とのことで、大きな期待感を持ちました。

おきたま農協の枝豆の作付面積が大きな伸びとなり、一年目から目標面積に近づいているとお聞きし、今後、国の産地パワーアップ事業を活用し、一億円産地に早くなれることを期待しています。

【農業者のご紹介】

荒井和子さん (下奥田)

今回は、平成29年に町独自制度「認定女性農業者」の認定を受けた荒井和子さんをご紹介します。

荒井さんは自家生産にこだわり、薄皮丸ナスの通信販売や米粉菓子・パンの製造販売を工房「まっ直ぐ屋」を拠点に活動する先駆的的女性農業者です。



▲荒井和子さん(工房にて)

農業を始めるきっかけは、会社員時代に薄皮丸ナスの通販をしたと思う、加工所を建て、栽培を始めました。薄皮丸ナスや米粉菓子・パンをなぜ選んだか

丸ナスはこの地方の伝統野菜であり、全国の置賜出身の人に故郷の味をお届けしたいと思いました。また、この頃から米粉ブームが起り、講習会に参加し、米粉菓子・パンの試作を繰り返しました。

販売にあたって苦労したことは。また、販売先は

最初は販売する場所が無く数多くのイベントに参加しました。現在の販売先は、森のマルシェ、南陽愛菜館、そして、置賜総合支庁売店です。

米粉食品で多くの受賞歴がありますか

平成24年はシフォンケーキで「おいしい山形賞」、翌年は米粉スノーボールで「山形6次産業化賞」、平成28年にはやまがた土産菓子コンテストで季節の米粉スイーツが「優良賞」。すべて自家製米粉を100%使用、本当に信じられません。

この受賞は、娘が名付けた工房「まっ直ぐ屋」のように、誠心誠意取り組んできた結果

充実したホームページは、自分で作成したのですか

周囲の方のご指導により自分で作成しました。今は、スマホ対応のHPに作り直しています。創業から10年経過後、多くのお客様が丸ナスを待つてくださっています。

就農を目指す女性に対して、県や町などの支援策は

これから新しく始める人が気軽に相談できる窓口を、置賜総合支庁農業技術普及課や役場などに設置していただければ、より安心して取り組めると思います。

11年目を迎えるの抱負は何度試作しても上手くできない「米粉クロワッサン」を完成させたいと思います。



▲まっ直ぐ屋さんのホームページ